

# 古河電工

## 古河電気工業株式会社

2026年3月期第1四半期決算説明会

2025年8月7日

**[登壇者]**

1名

代表取締役 兼 執行役員常務 財務本部長

青島 弘治 (以下、青島)

## 古河電工グループ° 2025年度第1四半期決算

2025年8月7日

古河電気工業株式会社

代表取締役 兼 執行役員常務 財務本部長 青島 弘治

© FURUKAWA ELECTRIC CO., LTD.

**青島**：皆様、財務本部の青島でございます。本日はお忙しい中、当社の決算説明にご参加いただき、誠にありがとうございます。それでは、私より2025年度第1四半期決算および2025年度通期予想についてご説明いたします。

### ■ 前年比増収、各段階損益で増益

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)	FY24_Q1	FY25_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	2,736	2,937	+202
営業利益	35	84	+49
経常利益	71	78	+7
親会社株主に帰属する 当期純利益	47	52	+5
銅建値 平均	1,570	1,424	▲146
為替 平均	156	145	▲11

5

まずは、5 ページをご覧ください。2025 年度第 1 四半期決算のポイントでございます。

第 1 四半期の実績は、前年比で増収、各段階損益で増益となりました。売上高は 2,937 億円、営業利益はプラス 84 億円、経常利益はプラス 78 億円、親会社株主に帰属する当期純利益はプラス 52 億円となりました。

## 25年度Q1実績-要約P/L

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)	FY24_Q1	FY25_Q1	前年比	主な増減内訳 (Q1)
	a	b	b-a	
売上高	2,736	2,937	+202	10ページ参照
営業利益	35	84	+49	11ページ参照
(率)	1.3%	2.9%	+1.6	
受取/支払利息	▲ 19	▲ 20	▲ 0	
持分法投資損益	45	21	▲ 24	持分法適用関連会社の異動
為替損益	10	▲ 23	▲ 33	
経常利益	71	78	+7	
(率)	2.6%	2.6%	+0.1	
特別損益	▲ 18	▲ 1	+17	・特別利益：▲6 (9→3)
法人税等	3	▲ 18	▲ 21	・特別損失：+23 (▲27→▲4)
非支配株主に帰属する 当期純利益	▲ 8	▲ 7	+1	
親会社株主に帰属する 当期純利益	47	52	+5	
(率)	1.7%	1.8%	+0.0	
銅建値 平均	1,570	1,424	▲146	
為替 平均	156	145	▲11	

6

次の6ページは、要約P/Lでございます。第1四半期の実績に関する売上高および営業利益については、10ページ、11ページの増減要因で説明いたしますが、その他の項目について補足いたします。

持分法投資損益は、前年比で24億円減少していますが、主にUACJ社が持分法適用会社から除外となったことによるものでございます。

為替差損が、前年比で約33億円悪化していますが、主に円や台湾ドルに対し、米ドル安となったことで、外貨建て債権の評価が減少した影響で発生しております。

## ■ 全社の通期予想は据え置き

- 関税影響をアップデート
- 一部セグメントで売上・営業利益を見直し（8ページ参照）

(単位：億円、円/kg、円/米ドル)	FY24	FY25 予想*	前年比
	a	b	b-a
売上高	12,018	12,000	▲ 18
営業利益	471	530	+ 59
経常利益	486	520	+ 34
親会社株主に 帰属する 当期純利益	334	360	+ 26
銅建値 平均	1,478	1,335	▲ 143
為替 平均	153	140	▲ 13

\* 2025/5/13公表

### (参考) 米国関税措置の影響と対応



- コスト増に対する各種対応は、現時点では概ね期初想定通りの進捗

7

次に、7ページでございます。通期予想は、5月公表時の予想を据え置きます。為替レート的前提も、1ドル140円で据え置きます。

また、米国関税措置の影響を5月公表時よりアップデートしております。現時点で把握している直接的なコスト増への対応が、おおむね期初想定通りの進捗となっており、全てリカバーする予定でございます。

一部セグメントにおいて、売上、営業利益を見直しており、次8ページで説明いたします。

## 25年度通期予想-セグメント別 売上高・営業利益

### 変更点

- 自動車部品・電池：古河電池㈱の非連結化のタイミング（Q3⇒Q4）
- 機能製品：台湾ドル高の影響（銅箔）、主要顧客の需要変化に伴う減収（半導体製造用テープ）

(単位：億円)	売上高			営業利益			売上高					営業利益				
	FY24_Q1	FY25_Q1	前年比	FY24_Q1	FY25_Q1	前年比	FY24	FY25 前回予想*	FY25 予想	前年比	前回 予想比	FY24	FY25 前回予想*	FY25 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	b-a	c	d	d-c	e	f	g	g-e	g/f	h	i	j	j-h	j/i
インフラ	687	803	+115	▲ 28	1	+28	3,091	3,750	3,750	+659	-	58	140	140	+82	-
情報通信ソリューション	370	470	+100	▲ 40	▲ 7	+33	1,670	2,350	2,350	+680	-	▲ 40	75	75	+115	-
エネルギーインフラ	318	333	+15	13	8	▲ 4	1,421	1,400	1,400	▲ 21	-	98	65	65	▲ 33	-
電機エレクトロニクス	1,672	1,737	+65	42	66	+24	7,364	6,400	6,650	▲ 714	+250	326	250	270	▲ 56	+20
自動車部品・電池	941	962	+21	36	56	+20	4,095	3,450	3,700	▲ 395	+250	276	200	220	▲ 56	+20
電装エレクトロニクス材料	731	774	+43	6	10	+5	3,270	2,950	2,950	▲ 320	-	50	50	50	0	-
機能製品	359	373	+14	34	40	+6	1,470	1,850	1,600	+130	▲ 250	141	190	170	+29	▲ 20
サービス・開発等	82	97	+15	▲ 12	▲ 21	▲ 8	348	400	400	+52	-	▲ 54	▲ 50	▲ 50	+4	-
連結消去	▲ 65	▲ 73	▲ 8	▲ 1	▲ 2	▲ 1	▲ 256	▲ 400	▲ 400	▲ 144	-	▲ 1	0	0	+1	-
連結合計	2,736	2,937	+202	35	84	+49	12,018	12,000	12,000	▲ 18	-	471	530	530	+59	-

\* 2025/5/13公表

8

自動車部品・電池セグメントについては、古河電池の非連結化が当初想定より遅れるため、売上高 250 億円、営業利益 20 億円を上方修正し、機能製品セグメントは、銅箔において台湾ドル高・米ドル安が進んだこと、半導体製造用テープにおいて主要顧客の需要変化に伴う減収を見込み、売上高 250 億円、営業利益 20 億円を下方修正します。連結全体の見通しは、5 月公表値を据え置きます。

## 25年度通期予想-セグメント別 営業利益



主なセグメントの営業利益											
セグメント	サブセグメント	FY24		FY25予想			前年比		前年比の主な要因		
		Q1	Q2~Q4 a	Q1	Q2~Q4 b	75	Q1	Q2~Q4 b-a			
インフラ	情報通信ソリューション	▲40	0	▲40	▲7	82	75	+33	+82	+115	・ データセンタ関連製品の売上増 (増産投資効果の発現)
	エネルギーインフラ	13	85	98	8	57	65	▲4	▲29	▲33	・ 個々の案件の採算性の違い
電装エレクトロニクス	自動車部品・電池	36	240	276	56	164	220	+20	▲76	▲56	・ 古河電池の非連結化 (Q4) ・ 中国・東南アジア市場での売上減 (Q2~) ・ 固定費の増加
	電装エレクトロニクス材料	6	44	50	10	40	50	+5	▲5	0	
機能製品		34	107	141	40	130	170	+6	+23	+29	・ データセンタ関連製品の需要堅調
連結合計 (サービス・開発等、消去等含む)		35	436	471	84	446	530	+49	●+10	+59	

うち 為替影響 約▲40億円

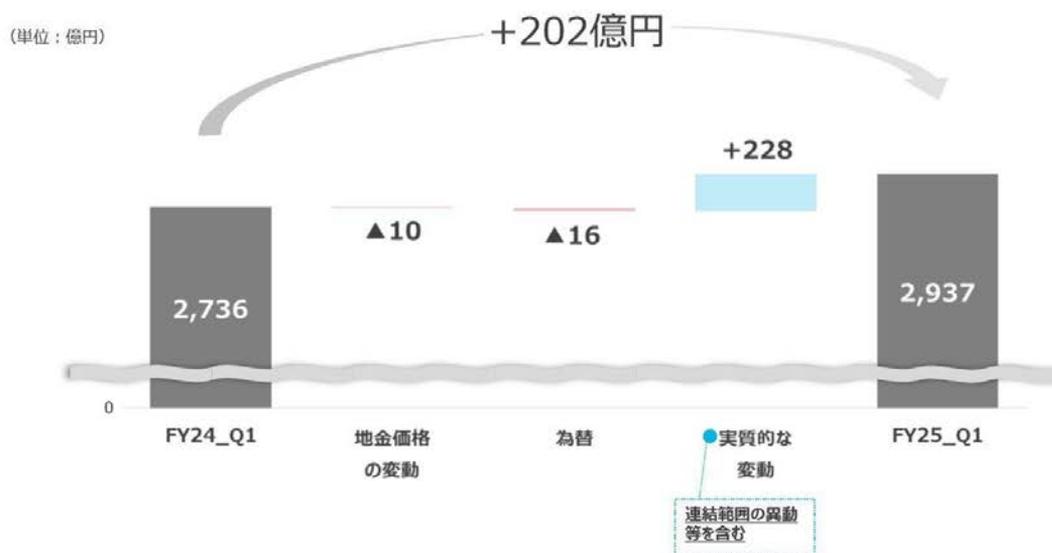
FY24_ Q1	FY25_ Q1	FY24_ Q2~Q4	FY25_ Q2~Q4	FY24	FY25 (参考値)
1,570	1,424	1,448	1,335	1,478	1,357
156	145	152	140	153	141

次に9ページです。今年度営業利益の見通しについて説明します。

第1四半期の実績は、前年比で49億円増益となりました。第2四半期から年度末までの見通しを前年比で示すと、連結全体で10億円の増益を見込んでいます。

これには、2クォーター以降の為替の前提を1ドル140円にしていることによる、約40億円の減益影響が含まれています。つまり、為替が昨年ベースになれば、約40億円上振れする可能性があることとなります。

情報通信ソリューションセグメントは、今後、データセンタ関連製品の売上が増加することで、前年比増益。エネルギーインフラは、個々の案件の採算性の違いから前年比減益。自動車部品・電池セグメントは、古河電池の非連結化により前年比減益。機能製品セグメントは、データセンタ関連製品の需要が堅調なため、前年比増益を見込んでいます。



10

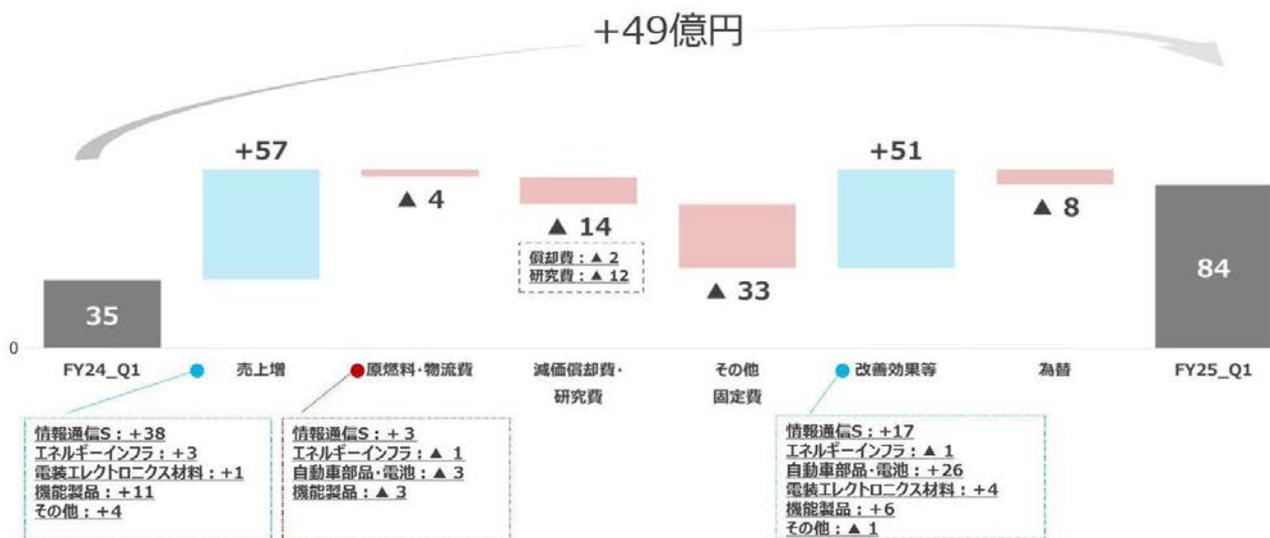
次の10ページは、第1四半期の売上高増減要因です。

売上高は、前年同期比プラス202億円です。地金価格の変動はマイナス10億円、円高による為替影響はマイナス16億円、連結範囲の異動等を含めた実質的な変動はプラス228億円となります。

実質的な変動の主な内訳は、情報通信ソリューションで約120億円増加、電装エレクトロニクス材料で約60億円増加、機能製品で約15億円増加となりました。

## 25年度Q1実績-営業利益の増減要因

(単位：億円)



11

次の 11 ページは、営業利益の増減要因でございます。

売上増による 57 億円のプラスです。主な内訳は、情報通信ソリューションで 38 億円、機能製品で 11 億円のプラスとなりました。原燃料・物流費や減価償却費・研究費、その他固定費が増加していますが、改善効果等のプラス 51 億円でカバーしています。為替影響は、円高により 8 億円のマイナス、全体の増減要因のプラス 49 億円は、ほぼ売上の増加によるものと捉えております。

## FY25\_Q1 増収・増益

(単位：億円)	FY24_Q1	FY25_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	370	470	+100
営業利益	▲ 40	▲ 7	+33

## 【増減益要因】

(+) データセンタ向け製品等の売上増

## FY25\_通期予想

(単位：億円)	FY24	FY25 前回予想 <sup>*1</sup>	FY25 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	1,670	2,350	2,350	+680	-
営業利益	▲ 40	75	75	+115	-

据え置き

## 事業環境の認識

&gt;&gt; FY25\_H1 FY25\_H2 &gt;&gt;

データセンタ市場向け需要増  
(データセンタ事業者・ダークファイバプロバイダ・通信システムプロバイダ)

## 注カポイント

- ・ 米国関税措置への対応
- ・ データセンタ向け製品の開発・製造・販売体制強化

ローラブルリボンケーブル・ソリューション

MTフェルール

DFBLレーザ<sup>\*2</sup>

\*2 Distributed Feedback Laser (分布帰還型レーザ)

\*1 2025/5/13公表

12

次に 12 ページです。ここからは、サブセグメントの状況についての説明となります。

まずは、情報通信ソリューションです。第 1 四半期の実績は、前年同期比で増収増益です。データセンタ向け製品等の売上が増えてきたことにより、増益となりました。事業環境の認識は、こちらにお示しておりますが、5 月公表時から大きな変化点はございません。

セグメント別売上高・営業利益  
1-(2) インフラ(エネルギーインフラ)

FY25_Q1		増収・減益	
(単位:億円)	FY24_Q1	FY25_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	318	333	+15
営業利益	13	8	▲ 4

【増減益要因】

- ・国内超高压・再エネ関連・機能線の需要は引き続き堅調

\* 2025/5/13公表

FY25_通期予想		FY25		FY25		前年比		前回	
(単位:億円)	FY24	前回予想*	予想	前年比	前年比	予想比	前年比	予想比	
	a	b	c	c-a	c-a	c-b	c-a	c-b	
売上高	1,421	1,400	1,400	▲ 21	▲ 21	-	▲ 21	-	据え置き
営業利益	98	65	65	▲ 33	▲ 33	-	▲ 33	-	

事業環境の認識			
>>	FY25_H1	FY25_H2	>>
国内超高压	堅調な国内地中線の更新・再エネ関連需要		
海底線			
中国国内	需要回復時期は不透明		
機能線/部品	堅調な需要		

注カポイント	
・ 利益重視の受注	
・ ケーブル製造および工事施工能力の増強	国内超高压・海底線      再エネ関連
・ マーケティング活動の推進による拡販	らくらくアルミケーブル®      送配電部品

13

次の 13 ページは、エネルギーインフラでございます。

第 1 四半期の実績は、前年同期比で増収減益です。工事案件ごとに採算性等が違うことから、第 1 四半期は減益となったものの、国内超高压・再エネ関連・機能線の需要は引き続き堅調でございます。事業環境の認識も、5 月公表時から大きな変化はございません。

セグメント別売上高・営業利益  
**2-(1) 電装エレクトロニクス(自動車部品・電池)**

**FY25\_Q1** 増収・増益

(単位: 億円)	FY24_Q1	FY25_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	941	962	+21
営業利益	36	56	+20

【増減益要因】

- (+) 価格適正化
- (+) 電池は堅調

\*1 2025/5/13公表

\*2 電池事業非連結化の影響 (Q4を想定)  
 売上高 : ▲約210億円  
 営業利益 : ▲約20億円

**FY25\_通期予想**

(単位: 億円)	FY24	FY25 前回予想*1	FY25 予想	前年比*2	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	4,095	3,450	3,700	▲ 395	+250
営業利益	276	200	220	▲ 56	+20

上方修正

事業環境の認識

>> FY25\_H1 FY25\_H2 >>

自動車 部品	自動車生産台数は前年並み
	中国・東南アジア市場での売上減
電池	Q4からの非連結化を想定

注カポイント

- ・ 米国関税措置への対応
- ・ 電動車市場に向けた製品開発
- ・ 組み立ての自動化

アルミワイヤハーネス・高電圧対応品

14

次の 14 ページは、自動車部品・電池です。

第 1 四半期の実績は、前年同期比で増収増益です。前年は、価格適正化が 2 クォーター以降に進みましたが、今年度はすでに平準化されていることや、古河電池が堅調であることから、前年同期比で増益となりました。

古河電池の公開買い付けの状況を考慮し、非連結化のタイミングを 3 クォーターから 4 クォーターに修正したことで、通期見通しを上方修正しました。それ以外の事業環境の認識は、5 月公表時から変化はございません。

セグメント別売上高・営業利益  
**2-(2) 電装エレクトロニクス(電装エレクトロニクス材料)**



FY25_Q1		増収・増益	
(単位：億円)	FY24_Q1	FY25_Q1	前年比
	a	b	b-a
売上高	731	774	+43
営業利益	6	10	+5

【増減益要因】

- ・営業利益は前年並み

(参考)  
 銅建値平均 円/kg  
 為替平均 円/米ドル

	FY24_Q1	FY25_Q1
	1,570	1,424
	156	145

\*1 銅価・為替変動の影響を含む

\*2 2025/5/13公表

FY25_通期予想					
(単位：億円)	FY24	FY25 前回予想 <sup>*2</sup>	FY25 予想	前年比	前回 予想比
	a	b	c	c-a	c-b
売上高	3,270	2,950	2,950	▲ 320 <sup>*1</sup>	-
営業利益	50	50	50	0	-

据え置き

事業環境の認識

>> FY25\_H1 FY25\_H2 >>

エレクトロニクス関連製品需要は回復傾向

注カポイント

- ・高付加価値製品の拡販による製品ミックス改善

耐熱無酸素銅条  
(パワー半導体・放熱部品用)

リボン線・極細平角線  
(通信・インフラ用)

高機能製品  
(抵抗材等)

- ・販売価格の適正化と低採算品種の撤退

15

次の 15 ページは、電装エレクトロニクス材料です。

第 1 四半期の実績は、前年同期比で増収増益です。主に、海外連結子会社での増収により増益となっておりますが、営業利益はほぼ前年並みでございます。事業環境の認識は、5 月公表時から変化はございません。

FY25_Q1		増収・増益
(単位：億円)		
FY24_Q1	FY25_Q1	前年比
a	b	b-a
売上高	359	373 +14
営業利益	34	40 +6

【増減益要因】

- (+) データセンタ関連製品の売上増
- (-) 台湾ドル高の影響（銅箔）
- (-) 主要顧客の需要変化に伴う減収（半導体製造用テープ）

\* 2025/5/13公表

FY25_通期予想					
(単位：億円)					
FY24	FY25 前回予想*	FY25 予想	前年比	前回 予想比	下方修正
a	b	c	c-a	c-b	
売上高	1,470	1,850	1,600 +130	▲ 250	
営業利益	141	190	170 +29	▲ 20	

事業環境の認識			
>>	FY25_H1	FY25_H2	>>
データセンタ関連投資の活況継続			
為替影響（台湾ドル高）			
中国の半導体内製化進行			

注カポイント				
<ul style="list-style-type: none"> <li>• データセンタや再エネ関連市場向け高付加価値製品の増産・拡販</li> </ul>				
半導体 製造用テープ	高性能 フォーム製品	高性能放熱・ 冷却製品	HDD用薄型 アルミブランク材	高周波基板用 銅箔

16

次の 16 ページは、機能製品です。

第 1 四半期の実績は、前年同期比で増収増益です。データセンタ関連製品の需要は旺盛で、サーマル製品やハードディスク用アルミブランク材の売上が増加したことにより、増益となりました。

一方、銅箔において台湾ドル高・米ドル安が進んだこと、半導体製造用テープにおいて主要顧客の需要変化に伴う減収により、減益となりました。データセンタ関連投資の活況は引き続き継続しますが、第 1 四半期に減益要因となった銅箔と、半導体製造用テープの事業環境認識を織り込み、通期予想は下方修正しました。

## 25年度Q1実績-要約B/S

(単位：億円)	FY24末	FY25_Q1末	増減
	a	b	b-a
<b>流動資産</b>	<b>5,564</b>	<b>5,398</b>	<b>▲ 166</b>
現金及び預金	600	511	▲ 88
受取手形、売掛金及び契約資産	2,606	2,476	▲ 130
棚卸資産計	1,950	1,989	+39
<b>固定資産</b>	<b>4,306</b>	<b>4,342</b>	<b>+36</b>
有形固定資産	2,770	2,753	▲ 17
無形固定資産	229	228	▲ 0
投資その他の資産	1,307	1,360	+54
<b>資産合計</b>	<b>9,870</b>	<b>9,740</b>	<b>▲ 130</b>
<b>流動負債</b>	<b>3,945</b>	<b>3,769</b>	<b>▲ 176</b>
<b>固定負債</b>	<b>2,192</b>	<b>2,273</b>	<b>+81</b>
<b>負債合計</b>	<b>6,137</b>	<b>6,042</b>	<b>▲ 95</b>
株主資本	2,915	2,884	▲ 31
その他の包括利益累計額	499	501	+2
非支配株主持分	319	313	▲ 6
<b>純資産合計</b>	<b>3,733</b>	<b>3,698</b>	<b>▲ 35</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>9,870</b>	<b>9,740</b>	<b>▲ 130</b>
自己資本比率	34.6%	34.8%	+0.2
NET有利子負債	2,462	2,727	+265
NET D/ELシオ	0.72	0.81	+0.08

棚卸資産 39億円 増加

将来売上予定のプロジェクト・工事案件等の影響 +38億円

有形・無形固定資産 17億円 減少

投資その他の資産 54億円 増加

投資有価証券： +55億円

資産合計 130億円 減少

為替変動の影響： ▲127億円

次の17ページは、要約B/Sでございます。

総資産は9,740億円、前年度末より130億円減少しました。主に円高による為替影響によるものです。また、純資産の株主資本減少は、主に配当を実施したことによるものです。

■ 通期予想は据え置き

((2025/5/13公表))

(単位: 億円)	FY24_Q1	FY25_Q1	前年比	FY24	FY25 予想	前年比
	a	b	b-a		c	d
設備投資額	69	89	+20	386	540	+154
減価償却費	101	103	+2	413	420	+7
研究開発費	64	76	+12	254	290	+36



- 情報通信ソリューション
- エネルギーインフラ
- 自動車部品・電池
- 電装エレクトロニクス材料
- 機能製品
- サービス・開発等

18

次の 18 ページは、設備投資額、減価償却費、研究開発費です。

設備投資額、減価償却費、研究開発費についても、5 月に公表した数値から変更はございません。今後の設備投資は、主にデータセンタ関連などの注力分野に投資を行ってまいります。

私からの説明は、以上となります。